

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・「自分らしく生きる力」を育てるため、小学部から高等部までの一貫した教育活動の実践と教育課程を確立する。	①湘南養護ブランドに基づく小中高一貫した教育活動の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりを行う。	①湘南養護ブランドや教材フォルダを積極的に活用する。 ②主体的・対話的で深い学びについて研究をすすめ、授業づくりにかかす。	①湘南養護ブランドについての周知と理解がすすみ、教材フォルダやシラバスの充実が図られたか。 ②学部研究を深めるとともに、全校での共有も行い、キーワードを授業づくりに盛り込むことができたか。	①教材フォルダやシラバスを積極的に活用し授業づくりを行ったが、充実には至っていない。湘南養護ブランドについては、新転任者への説明は行ったが、全体での説明の機会は十分持てなかった。教育活動に湘南養護ブランドが浸透しており、周知と理解がすすんでいる。 ②学部研究において、コロナ禍における安心で安全な教育活動の展開と児童生徒の主体的な学びについて、議論を深め、実践し、次年度の教育課程編成につながる成果を得た。	①学習指導要領に基づいた年間指導計画や単元計画を、全校で共有し、湘南養護ブランド、教材フォルダとともにさらに活用と充実を図る。 ②研究成果を全校で共有し、新しい生活様式に基づいた主体的な学びを確立し、教育課程編成につなげる。	・湘南養護ブランドステーションとして、「コミュニケーションツールの活用」を公開研修会として発信されたことは評価できる。	①教育活動全般に湘南養護ブランドが浸透しており、周知と理解がすすんでいる。 ②コロナ禍における安心で安全な教育活動の展開と児童生徒の主体的な学びについて学部することができたが、全校での共有には至っていない。	①学習指導要領に基づいた指導計画を全校で共有する。自立活動の観点をプラスした湘南養護ブランドのさらなる充実と活用を図る。 ②研究成果を全校で共有し、新しい生活様式に基づいた主体的、対話的な学びを軸とした教育課程編成につなげる。
2	児童生徒 指導支援	・児童・生徒一人ひとりのコミュニケーション力の向上をめざし、個々の特性に応じて、人権に配慮した指導・支援を組織的に行う。	①児童・生徒一人ひとりに適したコミュニケーションツールの獲得と活用を図り、家庭や卒業後の活用につなげる。 ②人権に配慮し、児童生徒の特性に応じた指導支援を行う。	①コミュニケーションツールや支援ツールの活用をすすめ、家庭や進路先との共有を行う。 ②児童・生徒の指導において適切な言葉かけや距離感に配慮した対応を徹底する。	①ツールの活用と共有を行い、児童生徒の発信する力がついたか。 ②指導や打ち合わせ場面で人権に配慮した対応ができたか。	①コミュニケーションツールの活用で児童生徒が自ら発信する場面が増えた。休校中には、家庭での過ごしにツールの活用をすすめ、有効であった。コミュニケーションツール活用に関する動画配信研修会(約200名視聴希望)を実施し、地域への発信を行った。学習支援システム、ICT機器の整備と活用をすすめ、感染症対策に係るオンライン授業の取組みが行われた。 ②人権に配慮した対応を概ね行うことができたが、児童生徒との関係性において、距離が近すぎる場面も見受けられ、引き続き、配慮が必要である。	①家庭や地域とのコミュニケーションツールの共有をより図り、児童生徒の発信する力を高める。ICT機器の活用を推進し、より多様な支援ツールを提供する。 ②児童生徒との距離感及び年齢に応じた対応に配慮した指導を徹底する。	・通信環境整備がある程度整っている中で、学校運営協議会開催のICT活用は評価できる。動画配信による教育活動の紹介はわかりやすかった。	①コミュニケーションツールの活用と全校での共有が図られた。動画配信研修会を通して家庭との共有、事業所等との共有が図られた。事業所等との連携と共有は、今後もさらに進める必要がある。 ②児童生徒への適切な関わりを実践することができたが、児童生徒との関係性においての距離感については課題が残る。	①今年度の動画研修会を次年度も活用して、全校、家庭、事業所等とのさらなる共有を図る。オンライン授業の積極的、効果的活用を図る。 ②人権研修会を活用し、児童生徒との適切な距離感について考え、人権に配慮した指導を徹底する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導 支援	・自立と社会参加をめざし、児童・生徒一人ひとりのニーズと適性に応じた進路指導・支援を行う。	①個々に応じた人とかかわる力や社会的スキルの向上を図る。	①人との関わりや協力、ルールを学習する場面を多く設定して取り組み、自己理解、他者理解をすすめる。	①人と適切に関わる場面が多くみられるようになったか。	①個々に応じてあいさつ、返事、報連相、身だしなみ等社会的スキルの向上がみられた。新しい生活様式について学び、衛生面のスキルも向上した。 高等部では「自分を振り返ろうシート」の活用がすすみ、生徒自身による目標設定と実施、評価のサイクルが確立し、生徒の自己理解につながった。	①適切な距離を取りながら、学習を行うことを継続しつつ、一層の社会的スキルの向上と、自立に向けた取組みをよりすすめる。	・自立支援の強化、自立と社会参加に向けて、通学支援を個別の教育計画に盛り込んでほしい。	①個々の実態に応じた社会的スキルや新しい生活様式におけるスキルの向上がみられたが、適切な関わりを学習するための学習環境の設定は、難しい面もあった。	①今年度の学習環境の設定を検証しつつ、児童生徒の個々の実態に応じた自立に向けた取組みをすすめる。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育の推進及び障がいのある子どもの理解をすすめるため、地域との連携、協働による活動を展開する。	①地域資源を活用した学習活動を積極的に行うとともに、地域とのつながりをひろげる。	①積極的に地域資源を活用した学習活動を行い、地域の方と関わる機会を設定する。	①地域の方に児童・生徒の様子を理解していただく機会を多く持つことができたか。	①地域の方とかかわる機会の設定は難しくなった。ホームページの積極的活用やアセスメントの活用に関する動画配信公開研修会(約90名視聴)の実施、40周年作品展(来場者R2:210名R1:169名)の実施により、地域への情報発信を積極的に行った。本校の特色を地域へ発信することができた。	①情報発信だけでなく、地域とのつながりをより強化する。	・生徒指導の方向性を明確にすることで、地域(学校、保護者、自治会、地域住民)との協働をすすめていく必要がある。	①多くの情報媒体を活用して、本校の取組を地域に発信することができた。地域住民の協力を得て、通学支援の取組がすすんだ。自治会や地区社協との協働をさらに進めることが課題である。	①共生社会の実現と児童生徒の地域生活の充実を図るため、コミュニティスクールの部会を活用し、地区社協、中原公民館、自治会等とのつながりを強める。
5	学校管理 学校運営	・安心・安全な学校づくりの推進のため、危機管理体制の確立を図る。 ・教職員の専門性の向上及び不祥事の未然防止を図る。	①防災意識の向上、感染症対策も含めた危機管理体制の充実を図る。	①防災意識の向上や安全、衛生管理のマニュアルの作成や意識向上に取り組む。	①危機管理意識の向上が図られ、安全に学校生活を送ることができたか。	①学校活動ガイドライン、給食ガイドラインに則り、安心安全な学校生活を送る体制整備を行い、感染症対策を徹底した。 救急法講習会や、いじめ防止、避難訓練等、分散で実施し、感染対策を行いながら、危機管理意識の向上を図った。 感染症にかかる備品、消耗品等の購入及び施設設備の点検整備を迅速かつ適切に行い、充実が図られた。	①学びの保障と感染症対策の両立を全教職員で共通理解し、一層の安心安全な学校づくりを行う。	・学校目標・計画への達成状況が具体的に数値化されることが望まれる。(学校評価部会) ・危機に対処する心構えの共通理解と具体的な対処と役割分担を明確にするべきである。(学校評価部会)	①学びの保障と感染症対策の両立を図ることができた。 安心安全な学校生活と教育活動を継続して行うことが、何より重要である。	①学校活動にかかるガイドラインの全教職員での共通理解を行い、危機管理意識の向上を図る。